

株式会社アシスト

1. 活用推進者

経営企画本部 広報・人事部

豊田 敬子

システム基盤技術本部

藤井 宏樹



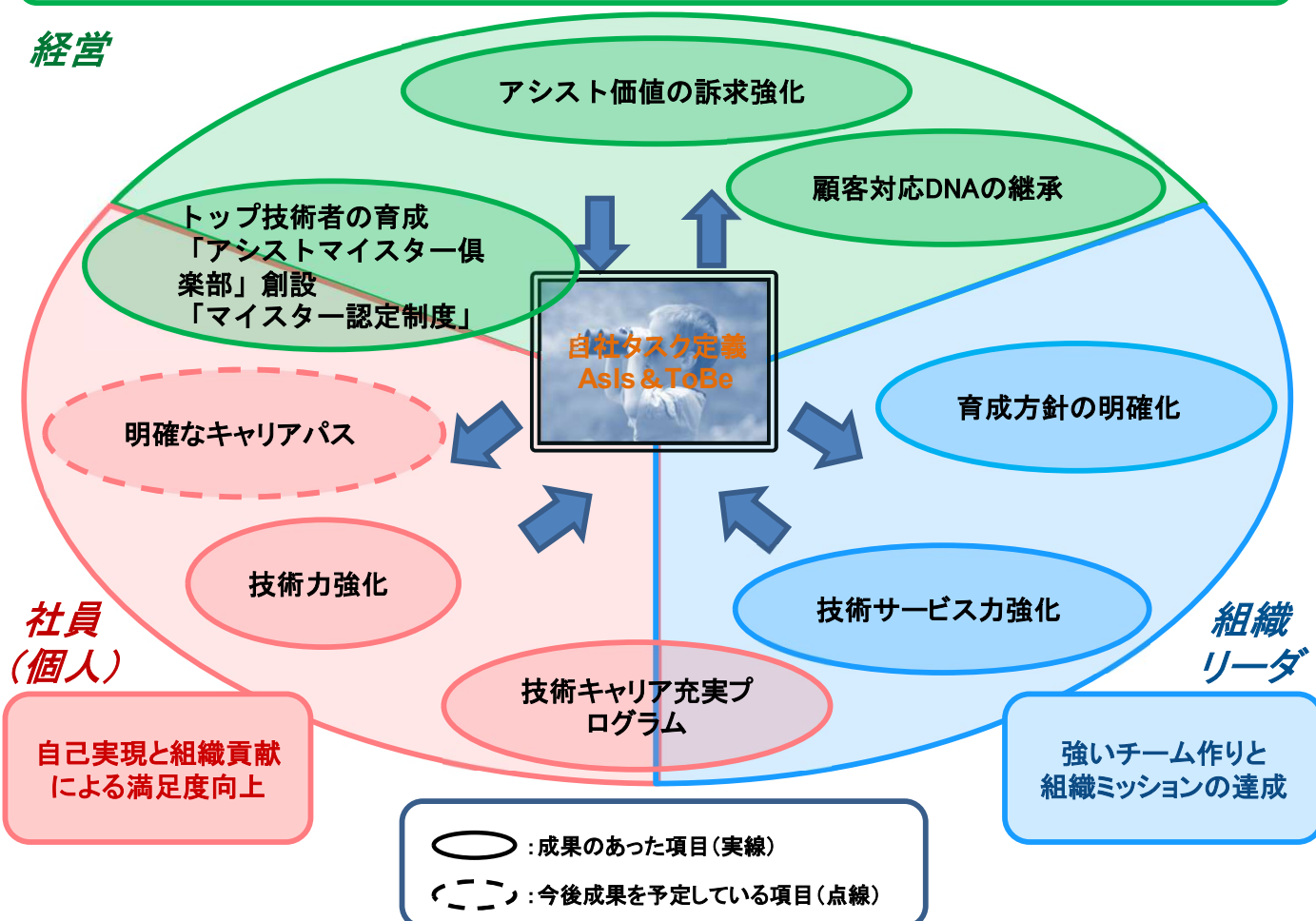
2. 会社概要

- 社 名 : 株式会社アシスト
- 所 在 地 : 東京都千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷スクエアビル
- 設 立 : 1972年3月
- 代 表 者 : 代表取締役会長 ビル・トッテン／代表取締役社長 大塚 辰男
- 資 本 金 : 6,000万円
- 従 業 者 数 : 1,244名(2022年4月現在) ※グループ会社含む

3. iCD取組み効果

お客様の最高のために『超サポ愉快カンパニー』の実現に向けて

経営



4. iCD取組みの効果及び今後予定する効果内容

4.1 効果のあった項目	効果内容
アシスト価値の訴求強化	iCDの活用や「iCD Silver Plus」認証取得など、アシストの取組みや実績を対外的にアピールすることで、アシスト価値の訴求を強化できた。
顧客対応DNAの継承	iCDベースの「マイスター認定制度」を制定し、運用を開始することで、アシスト最大の強みである「顧客対応のDNA」を継承する人材を継続的に育成・輩出できるようになった。
トップ技術者の顕在化と社内外へのアピール	トップ技術者の人物像、役割、必要タスク(iCD)、働き方を見える化/明確化することで、「顧客対応のDNA」「高品質な技術力」という経営テーマ2点を永続的に継承する仕組みを構築できた。トップ技術者を目指す社員へのモチベーションアップ、技術者の活性化にも繋がった。社外に対しては、高品質な技術力を明示できるようになった。
育成方針の明確化	iCDベースでの「タスク×スキル体系」により、中長期を見越した人材育成を効率的、効果的に推進できるようになった。また、育成方針を全社で共有できた。
技術サービス力強化	「マイスター認定制度」により、スペシャリストに求められる「タスク×スキル」が明確となり、パッケージソフトに偏らないスキル習得の必要性が広く認知された。積極的な技術習得につながる環境が整備できたことで、技術サービス力も強化された。
技術力強化	iCDベースの「タスク×スキル体系」及び育成プログラムにより、効果的、効率的に自身の技術力向上を図れるようになり、モチベーションアップに繋がった。
技術キャリア充実プログラムの開始	上司と部下(技術者)による年1回のキャリア面談実施により技術者としてありたい姿を両者で共有。次のキャリアに進むためのタスク(業務割り当て)スキル(技術力)を明確化し適宜適切に提供することが可能となった。
4.2 効果を予定している項目	予定している効果内容
明確なキャリアパス	iCDベースでの「タスク×スキル体系」により、自身が遂行すべきタスクや必要なスキルのみならず、将来的なキャリアパスも明確にし、さらなるモチベーションアップを図る。

5. iCD活用に対する現場からの評価の声



経営者

「お客様の最高のために」
「超メーカー」
「アシスト価値の訴求強化」
「選ばれるアシスト、選ばれ続けるアシスト(選続アシスト)」
といったアシストの目標、戦略を現場で実現するスペシャリストを育成する取り組みとして素晴らしい。
IT戦略にのっとり「As IsとTo Be」、**アシストの未来**や将来を見据えた体系となっている。

技術者の専門スキル向上に繋がるタスク×スキル体系が明確化された。プロダクト依存でないという点も良い。



現場リーダー

次世代のアシストをリードする高度な専門的技術スキルを持つ技術者を育成する仕組みとなっている。

アシストの3分野(運用、DB、BI)において、製品技術だけでなく分野のスペシャリストとして、高度かつ幅広い知識と実績を持つ人財を育成する制度となっている。

アシストが今後新たに取り組んでいくべき技術テーマをリードできる人財の育成が可能となる。

「マイスター」を目指すためにはどのようなことができればよいのか、何を学べばよいのかが明確化されているのでモチベーションの一つとなる。



社員

6. iCD取組みの効果

■効果項目:トップ技術者の育成「マイスター認定制度」創設

中期経営計画「超サポ-2024」の施策である「組織力の強化」にもとづき、アシストの技術をけん引するトップ技術者の育成・認定制度となる「マイスター認定制度」を創設。

[背景/内容]

「超サポ愉快カンパニー」というビジョンのもと、「選ばれ続ける技術者」の育成、高度な技術支援力/高度な専門職の輩出が求められていた。

トップ技術者の人物像、役割、必要タスク(iCDベース)、働き方を見える化/明文化し認定制度を創設。「顧客対応のDNA」「高品質な技術力」という経営テーマ2点を永続的に継承する仕組みを構築できた。

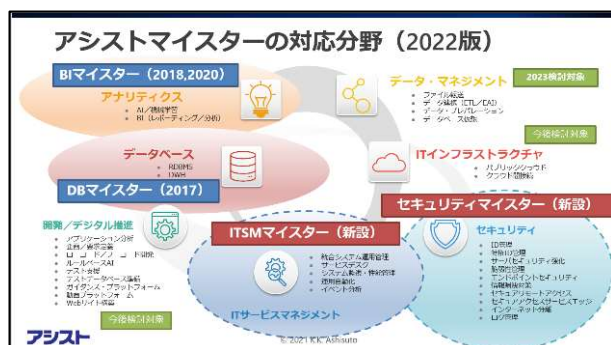
2022年時点:BIマイスター1名、ITSMマイスター1名

【マイスターのインセンティブ】

- ・年1回実施。各分野(BI/DB/ITSM/セキュリティマイスター)より自薦または上長推薦。
- ・マイスター称号の有効期間(3年)
- ・奨励金贈呈(一時金) 50万
- ・マイスター称号の付与と表彰
- ・名刺への記載(必須)
- ・経営レターでの通知
- ・ホームページでの公開(社内外へ)

【マスターのミッション】

- ・常に技術者のロールモデルであること
プロフェッショナル리티の発揮、経験の厚み、先進性、難易度、タスク遂行力
- ・アシストトップ技術者として専門分野の最新動向・情報の全社展開
- ・専門家としてのお客様支援、情報提供
- ・お客様コミュニティでのファシリテーションや講演
- ・社内技術者への勉強会・情報交流会・新人育成等による技術伝承と顧客DNAの継承



認定方針	
専門分野の高度専門スキルと分野ごとに定義された前提資格を有し安定して顧客課題解決を実践し、かつマイスターとして信頼される人材であることを総合的に判定する	
専門分野	各専門分野ごとのアセスメントシートによりタスクの実践度により判定する。 タスクの設定はIPAが提唱しているiCD (コンピテンシーディクショナリー) をベースとして定義。
前提資格	各マイスターごとに対象の前提資格設定が異なる。 IPA: ITストラテジスト、システムアーキテクト、システム監査技術者、ITサービスマネージャ、プロジェクトマネージャ、データベーススペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、情報処理安全確保支援士 (※国家資格登録可) PMI: PMP AXELOS: ITIL Expert、ITSM Expert ISC: CISSP、CCSP ISACA: CISM

6. iCD取組みの効果

■効果項目: トップ技術者の育成アシストマイスター倶楽部の創設

中期経営計画「超サポ-2024」の施策である「組織力の強化」にもとづき、アシストの技術をけん引するトップ技術者の育成・認定制度となる「マイスター認定制度」を創設。

[背景/目的]

トップ技術者としてマイスター任期を全ういただいた方に任期終了後も引き続きアシストマイスターとしてアシストの社内外のブランディング、技術力向上に貢献していただける機会を設定。アシストマイスターは製品カテゴリに依存しない幅広い活動を期待。

設立時期: 2022年5月

ミッション(活動内容):

- ・年1案件以上の社外向け活動
コミュニティ活動、講演など(例: DAMA理事等)
- ・年1案件以上の社内向け活動
技術勉強会など(例: ガートナー勉強会、新人研修での講演等)
- ・現マイスターの支援活動(新入社員研修講師、情報交流会等のマイスター啓蒙活動)
- ・業務執行会議で年間活動報告を実施(あわせてイントラにも掲載し全社公開)

年間活動費: 年間30万/一人

任期: 5年(更新はマイスター委員会の推薦と業務執行会議での承認が必要)

2022年時点: 2名。

6. iCD取組みの効果

■効果項目:技術者キャリア充実プログラムの開始

上司と部下(技術者)による年1回のキャリア面談実施により技術者としてありたい姿を両者で共有。次のキャリアに進むためのタスク(業務割り当て)スキル(技術力)を明確化し適宜適切に提供することが可能となった。

[背景/目的]

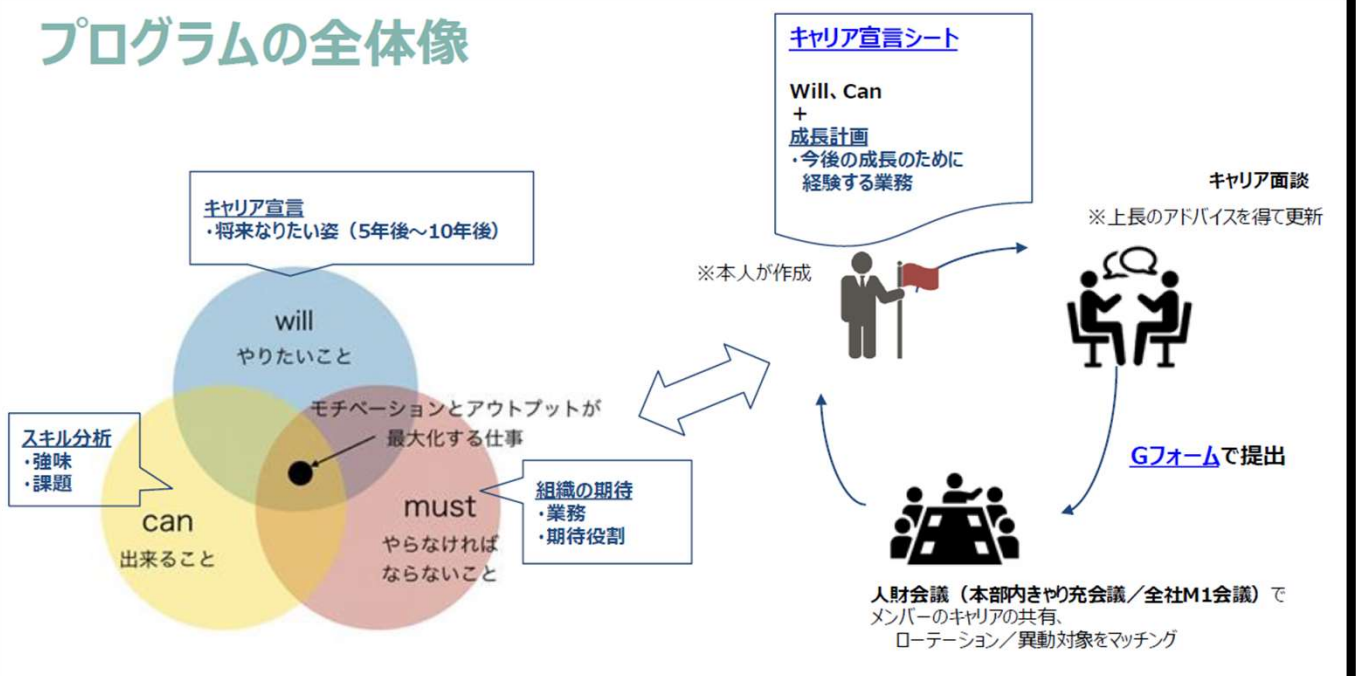
アシストマイスター、マイスターなどトップ技術者/技術者のロールモデルは理解できるが、ではどうやってそこに到達するのか、また自身は技術者としてどのようなキャリアを描きたいのかを社員が考え上司がそれを支援し共に成長し続ける仕組み、文化が必要とされていた。

実施時期:7月-8月

実施形態:

- 1.課長と部下によるキャリア面談
- 2.部門内でキャリア面談の結果を共有。各人に必要な支援(タスク割り当て、スキル付与、メンター割当等)
- 3.技術部門長会議(人財会議)にて共有し必要があればローテーションも検討する
- 4.3.終了後に課長から部下に対して個々への今後の支援内容をフィードバック

プログラムの全体像



6. iCD取組みの効果

■効果項目：技術力強化、顧客対応DNAの継承

マイスター(トップ技術者)の人物像、役割、必要タスク(iCDベース)、働き方を見える化/明文化しイントラ上で全技術者に対してロールモデルを提示。パッケージソフトに偏らないタスク遂行・スキル習得の必要性が広く認知され、技術力も強化された。また、アシスト最大の強みである「顧客対応のDNA」を継承する人材を継続的に育成・輩出できるようになった。

[背景/内容]

創業(1972年)以来、お客様への支援を通じて経験や技術を蓄積し、膨大な実績を残してきたが、「めげない・にげない・あまり儲けない」の精神、アシストの最大の強みである「顧客対応DNA」を自ら体現し継続できる技術者の育成と継承が求められていた。

マイスター認定はiCDベースのタスク遂行能力(BI/DB/ITSM/セキュリティマイスター)が評価基準の一部となっているため、マイスターを目指す候補者自身も必要なタスク×スキルを意識して業務に臨むようになり、上長も対象者の育成およびタスク遂行を考慮して案件・業務を経験させるようになった。また、必須資格があるため、研修・資格費用などを予算化し、積極的、優先的に受講・受験させるなども考慮されるようになった。

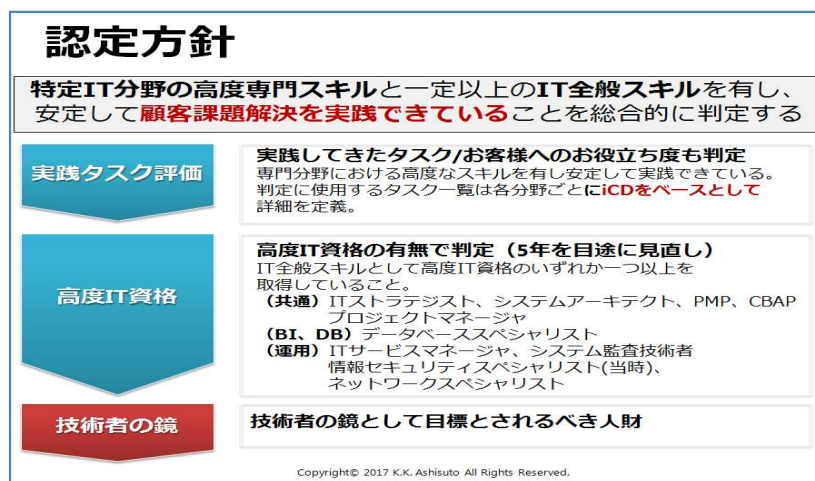
また、現マイスターによる社内向け勉強会や技術交流会などの「DNA継承活動」により、社員に対して顧客対応時の心構え等意識の継承が実現できている。

2022年度活動

◆マイスターによるアシスト技術交流会、勉強会の実施

アシスト技術交流会など、マイスターが全国の技術者に向け技術の最新動向に関する講演をしたり、技術者としてあるべき姿、自身の日頃の顧客活動について語ったりすることで顧客対応DNAが着実に浸透している。

技術者交流会では「キャリア」「制度」「組織」「変革・変動・サブスクの時代に、アシスト技術はどう変わるべきか？」などを技術者間で語りあうことにより全社の課題が見えてきて経営への提言に繋がっている。また、技術者として今後のビジネス環境での進むべき方向性を共有できるなど、良い流れができています。



6. iCD取組みの効果

■効果項目:アシスト価値の訴求強化

中期経営計画「超サポ-2024」の施策である「アシスト価値の訴求(超サポの実践)」にもとづき、マイスターによるアシスト価値、アシスト技術力の訴求が実現できた。

[背景/内容]

「超サポ愉快カンパニー」実現の施策「アシスト価値の訴求(超サポの実践)」のもと、従来から「アシスト価値の訴求強化(超サポ実践)」が求められていた。

2022年活動

◆アシスト・テクニカルフォーラムでの講演

<https://www.ashisuto.co.jp/event/atf/#session>

- ・アシストの視点:データ活用基盤の変化とData Mesh、Modern Data Stack
- ・アシストの視点:データ秘匿化の新たな解「合成データ」
- ・価値創造を実現するインテリジェンスマネジメント
- ・クラウドネイティブで監視はどうなる?「ゴーストレストラン」を例に図解で解説

◆Buddy活動

マイスターがお客様の経営課題・システム課題の良き相談者/Buddyとして製品や分野に捕らわれずに伴走する活動も実施している。

◆お客様コミュニティ活動

同じ課題を持つお客様をご招待して実施する各種情報交流会のファシリテータ/アドバイザーをマイスターが務めるなど、社内の技術第一人者として顧客活動を実施。

「超サポ愉快カンパニー」の世界観



「超サポ愉快カンパニー」 となるための3つの施策

